



高野長英

知っていますか？

入門編

蘭学を
長英に学んだ
学者たち

「中之条かるた」 制作：中之条町教育委員会
絵札：鈴木ひで
読札揮毫：奈良秀重
背景蘭文 『軍中備用』 当館蔵

前期

令和7年

7/4金・8/27水

休館日 木曜日

開館時間 9時～17時（入館は16時30分まで）

後期

10/31金

12/17水



Musée

中之条町 歴史と民俗の博物館
Nakanojo Museum of Folk and History

〒377-0424 群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町947-1

TEL 0279-75-1922 URL <https://www.town.nakanojo.gunma.jp/site/myuze/>

■観覧料 一般200円(160円) 小中学生100円(80円)

※()内は20名以上の団体料金

※障がい者手帳等をお持ちの方と、その付き添いの方1名は無料



◆高野長英と上州吾妻の蘭学者たち◆



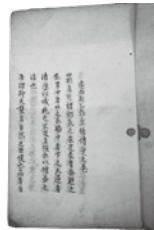
高野長英肖像 椿椿山画
(重要文化財、高野長英記念館蔵)

高野長英は長崎でシーボルトに学び、天保元年(1830)江戸に私塾「大観堂」を開いた。この頃、上州吾妻郡では福田宗禎、柳田楨蔵、木暮俊庵、望月俊斎など長英の教えを受けて蘭方医学を学ぶ者が続出した。天保2年、横尾の高橋景作は大観堂に入塾し、後に塾頭となった。天保7年(1836)8月、長英は弟子福田宗禎宅(沢渡)でソバを、柳田楨蔵宅(伊勢町)で馬鈴薯を食べた。これがきっかけで救荒作物として馬鈴薯とそばの栽培をすすめる『救荒二物考』という著書を刊行した。吾妻の蘭学者達は、長英が「蛮社の獄」で投獄され、脱獄し潜行した後も支援した。

■シーボルトから長崎で蘭学を学ぶ



シーボルト胸像
(東京都中央区築地、当館撮影)



シーボルト伝受之巻
(木暮俊庵写本、当館蔵)

■江戸に蘭学塾「大観堂」を開く



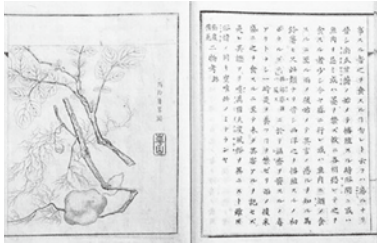
高橋景作宅で発見された
大観堂の陶印
(個人蔵)

麹町貝坂 大観堂学塾跡
(東京都千代田区平河町、当館撮影)

展示構成

1. 江戸時代の感染症と医療従事者
2. シーボルトに学んだ蘭学者たち
3. 高野長英と吾妻蘭学
4. 飢饉を救ったソバと馬鈴薯
5. 蛮社の獄と長英逃亡

■江戸時代後期に相次いだ 飢饉と感染症との闘い



医療用メス
(個人蔵)



牛痘ワクチン
(当館蔵)

救荒二物考
(高野長英記念館蔵)

■牧野富太郎博士が絶賛した植物標本



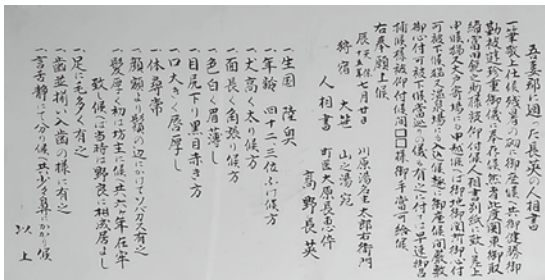
薬研

(赤岩湯本家所用、個人蔵)

植物標本

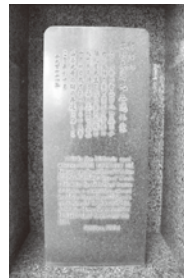
(赤岩湯本家所用、個人蔵)

■伝馬町牢獄を脱獄し逃亡、各地に潜伏後、江戸で幕吏に包囲され自刃(諸説あり)



湯本家の隠し部屋
「長英の間」
(中之条町赤岩、当館撮影)

吾妻郡に廻った
長英の人相書
(奈良秀重写、当館蔵)
※同様の人相書が各地に
出回った



高野長英隠れ家跡
(東京都港区南青山、当館撮影)

企画展講演会/シンポジウム

幕末の感染症に立ち向かった上州の蘭学者たち

日時 令和7年11月16日(日)13:00~15:00

場所 中之条町ツインプラザ 交流ホール

内容

第一部 基調講演「幕末のコレラ+蘭医高橋景作」

講師 高崎市はっとり皮膚科医院 医学博士

第二部 シンポジウム「高野長英と上州の蘭学者たち」

コーディネーター 共愛学園前橋国際大学 名誉教授

パネリスト 高崎市はっとり皮膚科医院 医学博士

中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」 館長

国立病院機構東京病院 感染症センター長

嬭恋村郷土資料館 館長

定員 190名 入場料 無料

※詳しくは当館公式ホームページをご覧ください

服部 瑛

宮崎 俊弥

服部 瑛

山口 通喜

永井 英明

関 俊明

次回の企画展 高橋景作没後150周年記念 高野長英展

後期 感染症に立ち向かった上州の蘭学者たち

期間 令和7年10月31日(金)~12月17日(水)

交通案内



【電車をご利用の場合】

・JR吾妻線中之条駅から徒歩約15分

・中之条駅から閑越交通バス(四万温泉行または沢渡温泉行)約5分、「博物館前」下車

【車をご利用の場合】

・閑越自動車道 渋川伊香保ICから約40分(駐車場 約20台)